学校と経営者の交流活動推進委員会主催

第13回教育フォーラム (3月23日開催)

より良い社会を創るために、私たちができるこ

「学校と経営者の交流活動推進委員会」は中学生(74人)、教員、 保護者など計127人が参加し、教育フォーラムを開催した。今 年は2時間にわたるテーマ別ディスカッションを中心とした 新たなプログラムで構成。正副委員長らが各グループのファ シリテーターを務め、「起業する」や「SDGsに貢献する」などの テーマで議論が進められた。最後に、議論内容や自分たちがで きることについて、全グループが成果発表を行った。当日の模 様をお届けする。 (所属・役職は開催時)



■委員長挨拶・メッセージ



自分で考え、自分で判断し、自分の 言葉で表現する力を身に付ける

教育フォーラムは13回目を迎えまし た。今回は、従来のような基調講演は 設けず、皆さんが事前に選択した社会 課題に関するテーマについて、十分に 議論を行えるような構成にしました。

これは、筋書きのないディスカッショ ンをしたいと考えたからです。学校教 育においても、正解を覚えて試験の点 数を取るような学習から、「自分で考え、 自分で判断し、自分の言葉で表現する 力」を高める学習へ変わりつつありま す。これらの力は、とても重要です。

私が社会人になった高度経済成長期 は日本が世界を席巻していました。し かし失われた20年といわれて以降、日 本のプレゼンスは世界で発揮し切れて いません。同質集団である日本企業は、 改善を重ねることで強みを発揮してき

た一方、多様な人と議論しながら新し い価値を創出すること、意見を表現す ることは不得意な傾向にあります。し かし、グローバルな多様性の中では自 分の意見をしっかり述べることが求め られます。

多様性の中で相手の意見を受け止め、 自分の意見を述べる

当社は、多様な国籍の人が働いてお り、常に議論が交わされています。残 念なのは、そこで議論に参加し切れな い日本人の姿です。さまざまな人と議 論して、堂々と意見を交わしながら、 結論に導いていく力が今まさに必要と されているのです。

議論において、同調して意見を言わ ずに遠慮することと、共感した上で自 分の意見を打ち出すことは異なります。 自分と異なる考えを排除せず、「なるほ ど、あなたはそういう考え方なのです ね。でも私はこう考えます」と繰り返 すことで議論が進み、互いに納得する 答えを導き出せます。今回のディスカッ ションは、相手の意見を受け止め、自 分の意見をしっかり述べる練習ができ ると思います。

より良い社会創りに向けた行動が 企業にも求められている

今回は「より良い社会を創るために、

私たちができること」をテーマに設定 しました。日本では昔から「三方よし」 という考え方があり、売手だけではな く買手、さらには社会貢献するという 意識がありました。近年は「CSV (共通 価値の創造)」という言葉が使われ始 め、社会課題を解決する事業、利益あ る成長とより良い社会を同時に追求し ていく企業の姿が求められているので

社会の中では、正解は一つではあり ません。自分で判断し、自分で表現す る姿勢が重要です。この後のグループ ディスカッションに、筋書きは用意し ていません。ファシリテーター役の講 師がいますが、あまり頼らないでくだ さい。2時間の間にしっかり自分の意 見を述べて、活発にディスカッション することを期待しています。

今回は先生方も含め22校から多くの 皆さんが参加してくれました。違う学 校の初めて会う人たち同士がグループ になりディスカッションを行います。 初めは手探りかもしれませんが、議論 をまとめるには誰かがイニシアチブを 取らなければなりません。ぜひ、主体 的に参加してください。 2 時間後に再 び集まり、グループの成果を発表する ときには、にぎやかな雰囲気に変わっ ていることを期待しています。

■グループディスカッション

グループディスカッションは、生徒が事前選択 したテーマごとに10グループに分かれて行わ れた。各グループは5~10人程度で構成され、 「学校と経営者の交流活動推進委員会」メン バーが 1 グループに 1 人ずつファシリテーター を担当。各テーマともファシリテーターから事 前学習の課題が出されており、それを持ち寄っ てスタートした。2時間で討議とまとめ、発表 準備まで進め、最後は1グループ3分の持ち時 間で成果発表が行われた。



より良い社会を創るための真剣な 議論から生まれた10チームの発表

2時間のディスカッションの前半は、 参加者同士の自己紹介や事前学習の共 有から議論が始められた。各ファシリ テーターは論点をより深める問いを投 げ掛けたり、議論の整理方法を提示し たり、あるいは途中から進行を生徒に 任せて見守ったりと、生徒が主体的に 参加できるような働き掛けが行われた。

最後の数十分はどのグループも発表 に向けた整理・準備に追われたが、「経 営者は、いつも最後の10分が勝負と思っ て集中するんだよ」といったファシリ テーターからの声掛けが後押しとなり、

ディスカッション テーマ

<生徒グループ> ※A~Nはグループ名

A: 「起業する」

- B·C:「すべての人に健康と福祉を」 D:「エネルギーをみんなにそしてク
- リーンに
- E:「住み続けられるまちづくりを」
- F:「気候変動に具体的な対策を」
- G·H:「平和と公正をすべての人に」
- 1:[2020東京オリンピック・パラリ ンピックのボランティアをする」
- J:「地球環境のための行動宣言」
- ※B~HはSDGs17GOALSからテー マを選択

<教員・保護者グループ>

 $K \cdot L \cdot M \cdot N : 4 \vec{\mathcal{D}} \mathcal{V} - \vec{\mathcal{D}}$ 「思考力、判断力、表現力をいかし、未 来を創造する教育のあり方」

全グループが議論の要点をまとめ、発 表の時間を迎えた。

発表は、1グループ3分の持ち時間 で、終了後に質疑応答時間が設けられ た。「緊張したけれど言いたいことを伝 えられた | という感想が多く、考えたこ とを人前で発表する経験も印象に残っ たようだ。前半はあまり手が挙がらな かった質疑も後半になると活発化。 「自分では思いつかない意見が聞けて参 考になった」「同じテーマでもグループ によって結論が異なり驚いた | という アンケートでのコメントが見られ、聴 き手としても積極的に発表会に参加し ていた様子が伝わってきた。

発表の総括で志賀委員長が「今日の フォーラムに来て楽しかった人は」と 尋ねると、数多くの手が挙がった。そ れを受けて「当初、2時間で議論をし てまとめるのはタフだと思っていたが、 どのグループの発表も示唆に富み、質 問も多く出されて大変良かった」「今後 もこの経験が活かされることを期待す る」とまとめ、会は盛況裡に終了した。

以下、各グループの議論と発表の要 点を紹介する。

【生徒】A 起業する

Aグループは、事前学習のテーマで それぞれの考える起業アイデアを持ち 寄った。全員で議論をし、最終的に「部 活動コーチ派遣」事業を提案した。「今 教員の働き方のブラック化が話題になっ ています。教員負担を何とか軽減しよ うと部活のコーチを派遣する事務所を つくることを考えました。教員負担を 軽減することで授業の質が上がり、生 徒は専門コーチの指導により専門性を 高めることができます」と話し、「運営 する上でもちろんお金が必要です。コー チの給料など最低限必要な費用は、各 部活から一律でもらう形態です | と事 業面にも言及した。「良い循環をつくり、 小さな地域から徐々に広げていきたい」 という構想をまとめた。

担当ファシリテーターからは、「アイ デアを絞り込むところで投資家の視点 に立って考えることを伝えたが、後半 は生徒たち自身でアイデアを補強する 議論を重ね、意欲的な議論が進んだ」 とコメントがあった。



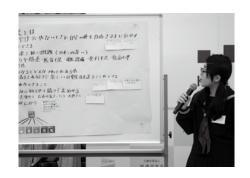
【生徒】B·C SDGsに貢献する

BからHの7グループはSDGsから 五つの目標をテーマに取り組んだ。

「すべての人に健康と福祉を」のBグ ループは、このテーマを選択した理由 や思いを共有するところから議論を始 めた。

発表ではまず健康であることのメリッ トは「心が満たされるような楽しい日 常生活を送ることができる」という結 論を伝え、その傍らにある発展途上国 の食料不足や貧困問題まで考えたこと を示した。そして「そこに必要なのは 平和だと考えました。国同士の戦争が なくなり、協力し合うことで食料不足 の国に食料を支給できるようになりま す。そして貧困がなくなり、人々は健 康になることができます」と考えが広 がったことを話し、「一つの問題だけで はなく、SDGsの全ての項目に皆で協力 して取り組まないと、解決が進まない ことが分かりました」と発表を締めく くった。

同じテーマのCグループは、事前学 習で身近な人の抱える課題を聞いて、 当日持ち寄った。それらの課題を議論 する中で焦点を当てたのは、介護士の 重労働・低賃金という課題だ。「介護業 界は仕事に就く人が来ず、人手不足に なるなどの悪循環が発生します。話し 合った結果、『人手不足を解消すること を優先して考えるべきだ』と考えまし た」と課題について議論を深めた過程 を紹介した。そして介護と健康の問題 に対しては「課題を多くの人に知って もらうために、体力テストを行います。 そこで点数が悪い人は中学生と一緒に





運動をします」「介護職の素晴らしさを 知ってもらうためにツイッターやイン スタグラムに投稿します。高齢の方に 向けては町内放送を行います」という 独創的なアイデアが披露され、会場の 興味を引きつけた。

「運動をする」アイデアに対して他の グループの生徒から「具体的にどのよ うにするのか」と質問が挙がり、「中学 生と同じ運動は大人には無理なので、 ストレッチ程度が良い」という回答に、 大人たちが苦笑する場面もあった。

【生徒】D~F SDGsに貢献する

Dグループは「エネルギーをみんな にそしてクリーンに」がテーマである。 議論を通じて「石炭や石油などの、皆 に供給する面で優れているエネルギー と、太陽光や風力、水力などクリーン な面で優れているエネルギーの二つに 分けることができた」と述べ、「CO₂を 出さない工夫ができないか、あるいは CO₂を浄化できないか」「自然エネルギー を活用して安いエネルギーを開発でき ないか」といった解決策が次々と挙げ られた。

最後に「無駄なエネルギーの使用を 抑えるため、学校や家庭などの個人で できることを考えました。不要な物は 買わない、使える物は繰り返し使う、リ サイクルするという『3R』をより積極 的に行ったり、ごみとなるものを減ら したり、近い距離では車を使わず歩く だけでもCO。を減らすことができます」 と具体的な行動の重要さを訴えた。

発表に対して、Aグループから「起 業アイデアを話していた中で、CO₂を 吸収する技術の話もありました」とい



う感想があった。

Eグループは「住み続けられるまちづ くりを」をテーマに議論したが、まず 「住みたくないまち」は、「治安が悪い町、 犯罪が多い町、不衛生な町、災害に弱 い町、交通の便が悪い町、近所付き合 いが悪い町」と考え、対極の「住みた いまち」とは「公園などが充実している、 子どもや高齢者に優しい町。ハザード マップや避難場所が充実している災害 対策が充実した町、病院や学校が充実 している町、そして何より地域交流が 盛んな町」の4点を挙げた。

そして「地域交流が盛んな町をつく るために、私たちができることを三つ 考えました。積極的に地域のイベント に参加して地域の人たちと交流を深め ること。災害時の行動を上級生が下級 生に伝え、そのサイクルが回っていく こと。そして些細なことでいいので困っ ている人を助け、協力すること。われ われの住みたい町は、地域交流が盛ん な町です | と力強く伝えた。

Fグループは「気候変動に具体的な対 策を」をテーマに取り組み、起こって いる事象と考えられる解決策を付箋で 書き出しながら議論を進めた。

その分類を進める中で「解決策を出 していく上で2種類の意見が出てきま した。一つは、CO₂や温室効果ガスな どの原因自体を減らすこと。例えばCO。





を減少させる技術開発などがあります。 もう一つは、気候変動による環境に合 わせる方法を考えることです」と述べ た。そして地域での啓発活動や企業が 環境問題に積極的に取り組むことの重 要性を指摘した上で、「個人では、地球 に優しいエコマークの付いた商品を買 う。環境に優しい製品や企業の存在を 広める。3Rをする。ごみの分別をす る、などが必要です。皆さんでもでき ることなので、ぜひやってみてくださ いしと発表した。

ファシリテーターからは「今回は対 策としてできることを中心に発表しま したが、討論中には『オゾン層に変わ るものを開発できないか』という革新 的な意見も出ました。そういう発想も とても重要だと思います。今後も発想 豊かに考えていってもらいたい」との コメントがあった。

【生徒】G·H SDGsに貢献する

「平和と公正をすべての人に」をテー マにしたのはGとHの2グループだ。G グループは「まず平和を阻害するもの をまとめました」と話し、「武力、負の 感情、宗教などの人がつくったもの」 を挙げた。そして「阻害するものを反 転させた結果、生活の基盤を単位とし て衣食住があること、何気ない暮らし



ができることが導かれました | とまと めた。

また公正についても考えを深め、「公 正について、私たちが最初に思い当たっ たのは法律です。法律が守られた中で 生活できるのは一番の権利ですが、法 律が絶対的なものとはいえません。 LGBTQに関連して新しく法律が作ら れるように、古い法律を疑ってかかる ことで解決に向かうものがあると思い ました」「教育の相対的格差という問題 についても話し合い、解決策はまだ出 ていませんが、考える必要があること が分かりました | と発表した。

他のグループの生徒からは、「何気な い暮らしとは具体的にどのようなもの か」「インターネットで生まれる負の感 情があるとしたら、どう解決したらよ いか」といった具体的な質問が挙がり、 この課題の奥深さを感じさせた。

一方Hグループは、「『皆に公平をと どけ隊』に、グループ名を変更しまし た」と述べ、「戦うゲームを『戦争ゲー ム』とするなら、『平和ゲーム』とは何 でしょうか」と会場に問い掛けた。 「『人生ゲーム』のような日常の暮らし に目を向けられるゲーム」と答えた声 を受けて、「私たちの討議でも同じよう な意見が出されました」。「そしてグルー プ内で話し合った結果、一番大事なの はいろいろな人がいることを理解して、 お互いに出した意見に共感し、最終的 に、皆が共感をしっかり持って、一致 団結することが平和づくりには大切な のではないかという結論になりました」 と発表した。

【生徒】I 東京オリンピック・パラリンピック のボランティアをする

Iグループはさまざまな論点の中か ら、3点に絞って議論を進め、発表を 行った。「一つ目はボランティアの必要 性についてです。中学生の私たちがで きることとして、清掃活動や文化交流 などが挙がり、どのように私たちの案 を知ってもらうかが重要だと話し合い



ました。そこで考えられるのはSNSで す。投稿が拡散し、同じような行動が 広まることや、大人に私たちの考えを 知ってもらうことにつながると考えた からです」「二つ目は、国境を越えた交 流が生まれるためには言語の壁、異文 化の壁を越える必要があります。翻訳 アプリなどの技術を活用することもで きます」「三つ目に、テレビで新たに異 文化チャンネルをつくったり、異文化 紹介書籍の発刊など、メディアの力を 使うことも考えました | と具体的な方 策や意見が述べられた。ディスカッショ ン中は「こういうことができるのでは ないか」「私たちの中学校ではこういう ことを実践している」という意見が 次々に重ねられ、そこから内容を絞っ て発表した。



他のグループからは「異文化チャン ネルの具体的な企画について教えてほ しい」という質問や、「いかに知っても らうかという観点で議論されたのが面 白い」といった感想が述べられた。

【生徒】】 地球環境のための行動宣言

」グループではなぜこのテーマに関 心を持ったか、個々人の体験をグルー プ内で共有するところから議論を始め た。ある生徒が述べた「電気のつけっ ぱなし」といった問題は自分の周りで も見られるという共感や、自分の知ら ない観点から出された意見が新鮮だと いう意見交換から、具体的な行動の議 論に進んだ。

そして発表では環境問題に対する具 体策を考えたと話し、「まず植物の力を 使うことを考えました。光合成を増や し、二酸化炭素を吸収するために、一 家庭で一つ植物を育てるという案です。 また、人間の力を使うことも考えまし た。たとえば雑草の生命力を活かした 開発を行い、新たな植物を作ることが 考えられます」。そして「私たちができ ることを考えたところ、食料の無駄を なくすという考えが出ました。そのた めに推進したいのは、地産地消です。 廃棄されることの無駄も、遠方から運 ぶことによる排出ガスもなくなります」 とグループで考えた意見を述べ、「食料 の無駄をなくす、植物の力を使う、人 間の力を活かすという3点が、環境問 題の具体策だと考えました」とまとめた。

「一家庭で一つ植物を育てるときの普 及推進方法はどう考えているか「新種 の植物を持ち込んだら在来種がダメー ジを受けないか」などと生徒間の質問 が相次ぎ、会場全体が真剣にこの課題 に向き合う機会となった。

【教員·保護者】K·L·M·N 思考力、判断力、表現力をいかし、 未来を創造する教育のあり方

生徒がグループディスカッションを 行っている間、教員・保護者も4グルー プに分かれ、ファシリテーターと共に 「思考力、判断力、表現力をいかし、未 来を創造する教育のあり方」について 意見交換を行った。



「今日のような場も、多様性に触れる 第一歩と考えています。同じ学年の他 校生徒と交流することは貴重な財産で す | といった話から、多様性に話が及 んだグループは複数見られた。自校の 生徒の多国籍化が進んでいるという教 員からは、「生徒の順応性は高いので、 配慮すべきことは察して対応していま すね。英語以外の語学に興味を持って 学び始めた生徒もいます」と環境に伴 う生徒の変化が語られた。

一方、「本来はさまざまな可能性があ るのに、数値化される結果だけに目を 向けがちな点が気になる」という問題 提起から意見交換が進んだグループも あった。「ある意味余裕がないのかもし れません。例えば医者になりたかった けれども、数学の点が悪いから諦める というように、偏った視点で選択肢を 狭める生徒の思考は気掛かりです」「本 当は工夫した過程を他のことに活かせ るはずですよね」「自己肯定感を下げて





しまう生徒は確かにいます」といった 意見が交わされた。ファシリテーター からの「成熟化社会で生きていくのは 結構大変で、企業内では意識して目標 を設定する傾向があります。基礎教育 ではできないことを伸ばすのも必要で すが、社会に出た後は得意な部分を伸 ばせと言われます。不得意な面は補完 してくれる人を探し、トータルとして 成果を出せばよいですからね」という 話にうなずきながら、これからの教育 のあり方について、さらに話が広げら れた。



また、生徒の発表を聞いた教員の感 想として、「どのグループも議論した内 容が深く、アイデアを創造していたこ とが良かった」「普段では考えないこと や思いつかない方法が出ており、興味 深く聞くことができた」などが挙がり、 「他校の生徒に混じり議論できたことが 生徒たちの自信につながる「戻ってき たときの満足そうな表情が印象的だっ た」というコメントも寄せられた。

参加講師 (ファシリテーター)

■牛徒グループ



志賀 俊之 日産自動車 取締役 「起業する」(A)



石渡 明美 花王 執行役員 SDGsに貢献する「すべての人に 健康と福祉を」(B)



日色 保 日本マクドナルド 上席執行役員 SDGsに貢献する「すべての人に 健康と福祉をJ(C)



川名浩-日揮 副会長 SDGsに貢献する「エネルギーを みんなにそしてクリーンに」(D)

生徒の感想

生徒グループ

- ●皆さんが、意見をただ出す、批判す るだけでなく、受け入れてそれを発展 させるのが良かった。互いに自分の意 見・経験を交える中で、新たな視点を 見いだせた。(中3・女子)
- ●自分が発想しなかったことや意見を 取り入れ、それらをまとめて結論を出 すという共同作業が特に印象に残りま した。(中2・男子)
- ●普段あまり考えないことを深く考え るのが新鮮でした。「すべての人に健康 と福祉を」のテーマでディスカッショ ンしましたが、たくさんの課題が見つ かるのと同時に、悪循環が起こってい ることに気付きました。(中1・女子)
- ●答えを出さなくてはいけない、正解 を一つ出さなくてはいけないなどの条 件がなかったので、自由に話し合えた ところが印象に残った。(中2・女子)
- ●1人で意見をまとめるよりも、いろ いろな人と考えをまとめることで、自 分にはないアイデアが生まれて多くの 意見を知ることができた。(中2・男子)
- ●自分の考えを持つことは大事なこと だと思いました。また、他の人の意見 を踏まえての意見を持つことも大事だ と思いました。(中1・女子)

- ●自分とは違う意見を持つ人たちがた くさんいて、正直驚きましたが、その 人たちとの討論は楽しかったです。ま た [平和] というのはいろんな価値観が あるということが分かりました。(中1・ 女子)
- ●今の自分たちには何ができるのかを 考え、実行してみるということが大切 だということ、話し合いで結論が出な かった場合は無理に発表することはな いということを知った。(中2・女子)
- ●よく話し合った上で、その話し合っ た内容を人前で発表するというのが良 かった。(中1・男子)
- ●始める前は2時間も話せないだろう と思っていましたが、とても楽しく話 せました。(中1・女子)
- ●多数の見方からたくさんの意見が広 がるという、グループの強さをあらた めて感じました。(中2・女子)

| 教員・保護者グループ

- ●今日的教育課題について考える機会 をいただき、参考になった。講師の方 の海外の経験を伺い、日本の教育を外 から考えることができた。(教員)
- ●心に残ったのは「楽しさ」を教育現場 にというお話です。生徒たちが素では なくなっていることは、本校でも実感





されます。学校全体でこれからの指導 の仕方について考えるヒントをいただ けました。(教員)

- ●正解のないディスカッションを多く 体験することにより、社会の一員であ るという実感、自己の存在価値を見い だし、自己肯定感を感じると思いまし た。差異を認め、感情を養う体験にも なると思いました。(保護者)
- ●学校の外に出て、経営者の方や他の 先生方の話を聞くだけで刺激を受けた。 非常に有意義な時間であった。生徒の 発表では特に、地域の方には学校に 入ってもらい、生徒と一緒に授業を受 けるアイデアはぜひ実現したいと思っ たし、面白いと思った。(教員)

■生徒グループ



中野 祥三郎 キッコーマン 取締役常務執行役員 SDGsに貢献する「住み続けら れるまちづくりを」(E)



多田 幸雄 双日総合研究所 相談役 SDGsに貢献する「平和と公正 をすべての人に」(H)



栗原 美津枝 日本政策投資銀行 常勤監査役 SDGsに貢献する「気候変動に 具体的な対策を」(F)



大西 賢 日本航空 特別理事 「2020東京オリンピック・パラリン ピックのボランティアをする」(1)



高橋 秀行 ート・ストリート信託銀行 取締役会長 SDGsに貢献する「平和と公正 をすべての人に」(G)



挽野元 アイロボットジャパン 代表執行役員社長 「地球環境のための行動宣言」

■教員・保護者グループ



成川哲夫 日本曹達 取締役



島田俊夫 CAC Holdings 取締役会長



林礼子 メリルリンチ日本証券 副会長



林 恭子 グロービス マネジング・ディレクター (N)